

環境技術実証モデル事業（湖沼等水質浄化技術分野）における
実証対象技術の選定について

平成18年度環境技術実証モデル事業「湖沼等水質浄化技術分野」の実証機関である石川県では、実証試験を実施する実証対象技術を下記のとおり選定しましたので、お知らせします。

1 背景・経緯

環境技術実証モデル事業は、既に適用可能な段階にありながら、環境保全効果等に客観的な評価が行われなかったため、普及が進んでいない先進的な技術について、第三者が客観的に実証することにより、環境技術の普及を促進し、環境保全と環境産業の発展を促進するものである。

石川県は、平成18年度の湖沼等水質浄化技術分野の実証機関として選定され、平成18年7月18日（火）から7月31日（月）まで「河北潟西部承水路における内部生産抑制等実証試験」の実証対象技術の募集を行ったところ、14件の申請がありました。

2 実証対象技術の選定

石川県では、申請された技術について形式的要件や実証可能性について検討するとともに、石川県環境技術実証委員会（委員長：寺田喜久雄金沢大学名誉教授）において、技術の先進性や環境保全効果等の検討を行い、更に環境省と協議した結果、次の2技術を実証対象技術として選定しました。（詳細は別紙のとおり）

(1) 技術の名称 : 多機能ガラス発泡体による水質浄化法
環境技術開発者 : 株式会社トヨシステムプラント
(山口県下関市秋根西町2丁目2番13号)

(2) 技術の名称 : 多機能セラミックス浄化システム
環境技術開発者 : スプリング・フィールド有限会社
(金沢市泉野町4丁目9番5号)

3 今後の予定

今月中に実証対象技術の実証試験計画を策定し、河北潟西部承水路において順次実証実験を実施し、来月2月には実証試験結果報告書を取りまとめ、環境省に報告後、来年3月以降に公表する予定です。

別紙

<p>技術の名称</p>	<p>技術の名称</p>
<p>多機能ガラス発泡体による水質浄化法</p>	<p>多機能セラミックス浄化システム</p>
<p>環境技術開発者</p>	<p>環境技術開発者</p>
<p>株式会社トヨシステムプラント</p>	<p>スプリング・フィールド株式会社</p>
<p>技術の概要</p>	<p>技術の概要</p>
<p>物理的に無数の多孔質な構造体により、バクテリア (0.5~5μm) や原生動物(5~250μm)、後生動物 (数mm以下) ら微生物の最適な住処となっており、これら微生物の澄み付き活動により水質浄化を行う。 リン酸イオンとアンモニウムイオンを吸着する性能を有し、これらを微生物が分解する。</p>	<p>傾斜散水濾床板による水溶性有機物の生物膜接触酸化及び浸漬濾床槽によるリンの吸着とSSの緩速濾過。 また、浸漬濾床槽では補足したプランクtonの分解と脱窒反応が起こる。</p>
<p>機器構成図等</p>	<p>機器構成図等</p>
<p>サンプル等</p>	<p>サンプル等</p>